



2021年度  
国際キャリア教育プログラム

# 国際キャリア教育 事前学習資料集

主催：大学コンソーシアムとちぎ 宇都宮大学  
後援：(公社)栃木県経済同友会 (公財)栃木県国際交流協会、  
NPO 法人宇都宮市国際交流協会 いっくら国際文化交流会 JICA 筑波センター  
協賛：(公財)あしぎん国際交流財団  
特別協力：宇都宮市創造都市研究センター

## 目次

(敬称略)

目標とルール	1
はじめに	2
実施要綱	3
プログラム	4
倫理綱領・個別ガイドライン・問題事例	5
「全体講義」との講師の紹介（重田 康博）	
混迷の時代の国際キャリアを考えるー真のグローバル人材に必要な条件	6
分科会 A と講師の紹介（谷澤 壮一郎）	
“ニッチ”を突き詰めて ～アジア取材という生業～	8
分科会 B と講師の紹介（山本 純子）	
コーチングを使ったコミュニケーションの極意	11
分科会 C と講師の紹介（大久保 達弘）	
学際フィールドワークを試してみる	13
分科会 D と講師の紹介（大澤 みずほ）	
何を大切にするかによってキャリアは変わる。	16
分科会 E と講師の紹介（石井 由貴）	
元リクルートのキャリアコンサルタントと考える、ジェンダーとキャリア	18
分科会 F と講師の紹介（若園 雄志郎）	
いくつもの日本～アイヌ民族から考える多文化共生～	20

## ●目標とルール

国際キャリア教育セミナーの参加者はルールを守り、目標の達成に向けて励んでください。

### 目標

- 「働く」とはどのようなことなのかについて考える。
- 自分と地域社会や世界とのつながりについて考える。
- 主体的に関わりたい分野を見つけ、今後の学びに向けた“きっかけ”を得る。

### ルール

- どんな意見も臆せず、積極的に発言しよう。
- 一人ひとりが参加者の自覚をもとう。
- 異なる意見を尊重するとともに自分の意見をもとう。
- 自分独自の意見を述べよう。
- 多様な発想を生み出す雰囲気をつくろう。
- 時間厳守で行動しよう！
- 安全、健康に注意をしよう。

## ●はじめに

国際キャリア教育プログラムに参加される皆様

国際キャリア教育運営委員会 委員長  
国際学部国際学科 教授

重田 康博



宇都宮大学、大学コンソーシアムとちぎ、そして全国の大学生、社会人の皆さん、国際キャリアについて考えたことがありますか。

大学時代に、就職活動に入る前に、国際キャリアのプログラムに参加してみたい、国際的な問題に対応する職場や海外で国際インターンをしてみたい、あるいは今、政府、企業、大学で叫ばれている、「グローバル人材」の育成のためのプログラムに参加してみたいと思う方がいるかもしれません。

そのように考えている皆さんのニーズに応えるのが、グローバルマインドを養う「国際キャリア教育プログラム」です。本プログラムは、宇都宮大学国際学部や栃木県の大学が中心になって 2004 年から毎年実施され、過去 17 年間における参加者数は約 1800 名に及び、多くの学生（宇都宮大学生、他大学等含）が参加しております。

このプログラムの科目は、学生が働く意味やキャリア教育について考える「国際キャリア教育」、英語で全て授業を行う「International Career Seminar」、国内や海外の企業、公的機関、NGO・NPO でインターンシップを行う「国際キャリア実習」の 3 科目、6 単位で構成されています。いずれも夏季と春季の休業期間に行い、講義は 3 日間の集中講義形式で、キャリア実習は 80 時間で行います。「グローバル化時代の地域とキャリア」とし、「地域からのグローバル化(Globalization)」、「地域のグローバル化(Glocalization)」の 2 つの柱を立て、国際ビジネス、国際協力・国際貢献、多文化共生と日本、異文化理解・コミュニケーションの 4 つのテーマで分科会を構成します。講義ではその道のプロの専門家や講師を揃え、実習では国内・海外で魅力的で個性的な研修先を用意しています。3 科目すべての履修を勧めますが、選択的な受講も可能です。

「国際キャリア教育プログラム」は、毎年宇都宮市や栃木県内だけでなく、全国から大学生、社会人が多数参加します。皆さんもこのプログラムに参加して、国際キャリアについて一緒に学び、国際社会や地域社会への「キャリアパス」の可能性を探っていきましょう。

最後に、本プログラムは、栃木県からの支援を受けて、大学コンソーシアムとちぎとの共同事業として企画しましたが、その実施に際しましては、(公社) 栃木県経済同友会、(公財) 栃木県国際交流協会、NPO 法人宇都宮市国際交流協会、いっくら国際文化交流会、そして、JICA 筑波センターからご後援をいただきました。また、(公財) あしぎん国際交流財団からはご協賛、宇都宮市創造都市研究センターからは特別協力をいただきました。ご関係の皆様からの多大なご理解とご支援に対し、主催者を代表して、厚くお礼申し上げます。

## ●実施要綱

- 1) 科 目 名 : 国際キャリア教育 2021
- 2) テ ー マ : グローバル時代のキャリア形成を考える
- 3) 日 程 : 2021年9月18日(土)～20日(月祝)  
事前指導 : 2021年7月20日(火) 18:00-19:30
- 4) 実施形態 : Zoomによるオンライン授業
- 5) プログラム : 4頁を参照
- 6) 参加定員 : 50名
- 7) 参加費 : 無料 ※ネットワーク通信料等は自己負担となります
- 8) 問 合 せ : 宇都宮大学 峰キャンパス事務部国際学部係 (5号館C棟1階)  
担当 : 佐藤  
<所在地> 〒321-8505 宇都宮市峰町 350  
<問合先> TEL: 028-649-5172 (直通) FAX: 028-649-5171  
E-mail: kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

●プログラム（敬称略）

1日目（9月18日 土曜日）

時 間	内 容
09:00～09:30	受付
09:30～09:50	開講式・オリエンテーション
09:50～12:00	全体会（全体講義・ブレイクアウトセッション）
12:00～12:50	昼食
13:00～15:00	パネルトーク「グローバル時代におけるキャリア形成について」
15:10～15:30	趣旨説明（分科会および全体発表のプレゼン方法の説明など）
15:50～17:50	分科会 1
	分科会 A「国際ビジネス」 講師：谷澤 壮一郎
	分科会 B「異文化理解コミュニケーション」 講師：山本 純子
	分科会 C「国際協力・国際貢献」 講師：大久保 達弘
	分科会 D「国際協力・国際貢献」 講師：大澤 みずほ
	分科会 E「多文化共生と日本」 講師：石井 由貴
	分科会 F「多文化共生と日本」 講師：若園 雄志郎

2日目（9月19日 日曜日）

時 間	内 容
08:30～12:00	分科会 2
12:00～12:50	昼食
13:00～15:30	分科会 3
15:30～16:30	分科会 4（分科会まとめ・中間発表準備）
16:30～17:30	中間発表
17:30～18:30	分科会 5（発表準備）

3日目（9月20日 月曜日）

時 間	内 容
08:30～10:00	発表準備
10:00～12:20	全体発表
12:20～13:10	昼食
13:30～15:00	ふりかえり・閉講式

### 1. 国際キャリア教育プログラム倫理綱領

本プログラムの関係者は、以下の原則に従って行動します。

- ① その活動において、常に基本的人権と個人の尊厳を尊重します。
- ② 国際学部並びに本プログラムの教育目標の実現に資する教育を行うために、改善と向上に努め、学生の自発的な学習を支援します。
- ③ 学修目標を明確に示し、学生への対応や成績評価などの学生指導全般において、公正を確保します。
- ④ 個人情報の保護に最大限の注意を払います。

### 2. 倫理綱領に基づく個別ガイドライン

以上の倫理綱領に基づき、特に以下の点について配慮をお願いいたします。

- ① 人種やジェンダー、言語、宗教、国籍、社会的背景、年齢等が異なる多様な参加者で構成されているプログラムであることに留意しつつ行動します。
- ② 食事や信仰生活を含む生活様式を尊重し、可能な限り対応します。
- ③ ハラスメントに該当する行為は決して行いません。
- ④ ハラスメントに関する情報を得たり相談を受けた場合には、放置せずに対応します。
- ⑤ 参加者による主体的な学びを尊重し、その提案や意見を積極的に取り入れます。

### 3. 具体的な過去の問題事例

(事例にある「参加者」とは、講師、スタッフ、学生等の参加者全員を意味します。)

#### 事例 1) 国籍による差別発言

ある参加者から「A 国人は物を盗む」といった国籍による差別的な発言があり、その国籍を有する他の参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

#### 事例 2) ジェンダーや多様性への配慮を欠いた発言

ある参加者が、男性的な服装をしている女性の参加者に対して、「いい歳なのだから、もう少し女性らしくしないと」とジェンダーに関する配慮に欠ける発言があった。その結果、トランスジェンダー<sup>1</sup>であるその女性参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

#### 事例 3) ハラスメントに該当する行為や発言

ある男性参加者が懇親会で他の参加者に酒を飲むようにしつつこく勧め、男女問わず「付き合っている人はいるのか」等と質問をして無理に答えを聞こうとしたり、女性の参加者に対して酔っ払いながら「肩をもんでくれ」と頼んだりした。

#### 事例 4) 主体性や協働を認めない教育

分科会において講師が一方向的に講義を続けたり、一部の参加者のみが発言を独占する事態が発生した。その結果、学生たちが主体的に協力しながら行う議論や全体発表準備のための作業時間を、十分確保することができなかった。

#### 事例 5) 許可を得ないで行う個人情報や写真の使用

ある参加者が、他の参加者の連絡先などの個人情報や撮影した写真を、相手の許可なく SNS などを使って公開し、別の目的で利用した。

---

<sup>1</sup> トランスジェンダーとは、出生時に決定された性別に性的違和（性同一性障害）があり、性別を変えて生活していたり、性別を変えたいと思っている人（性と人権ネットワーク作成パネル、2014年より）。

## 混迷の時代の国際キャリアを考える

### — 真のグローバル人材に必要な条件 —

#### ☆講師プロフィール

氏名：重田 康博（しげた やすひろ）

所属：宇都宮大学 国際学部 教授

国際キャリア教育運営委員会委員長



#### 略歴：

北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程修了（博士・学術）

国際協力推進協会（APIC）主任研究員、クリスチャン・エイド客員研究員（イギリス・ロンドン）、現、国際協力 NGO センター（JANIC）主幹等を経て現職。専門は国際開発研究、国際 NGO 研究。開発教育協会評議員、JVC とちぎネットワーク代表。CMPS 福島乳幼児妊産婦プロジェクト・アドバイザー、JANIC 政策提言アドバイザー。著書に『NGO の発展の軌跡』（明石書店 2005）、『国際 NGO が世界を変える』（共著、東信堂 2006）、「第 4 章ミレニアム開発目標」田中治彦編著『開発教育—持続可能な世界のために』（学文社 2008）、重田康博『激動するグローバル市民社会—慈善から公正へ発展と展開』明石書店、2017 年

#### 全体講義の内容

今世界は混迷の時代と言われています。その混迷の時代を生きるための真のグローバル人材とは何か、その必要な条件を具体的な事例を示しながら紹介し、国際キャリア形成について考えます。

#### ★最初に、混迷の時代とはどのような時代なのかを説明します。

21 世紀は 9.11 米国同時多発テロに始まり、今日まで世界のいたるところで、未曾有の危機が発生しています。米国などの主導による経済のグローバリゼーションの進行により、かつての先進国と途上国の間の格差だけではなく、同じ国の中の富者と貧者、都市生活者と農今世界各地で、国家の分断、孤立、難民・移民の排除、自国第一主義とポピュリズムの波が押し寄せ、第 2 次世界大戦後世界の多くの国が目指してきた、「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の危機が叫ばれています。

このような「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の崩壊の危機の中で、NGO・CSO（市民社会組織）も含めたグローバル市民社会による多元主義の再構築と公共圏の形成が求められています。



この危機をどのように乗り越えるのか、どのように「国際協調主義」と「共生できる寛容な社会」を取り戻せるのでしょうか。混迷する時代を生きるためにグローバル人材をどのように育成すればいいのでしょうか。

**★次に、「グローバル人材」とは、何かを説明します。**

では、「グローバル人材」にはどのような能力が求められるのでしょうか。2011年6月文部省「グローバル人材育成推進会議」中間まとめでは、そのポイントとして、「語学力向上（英語）」と「内向き志向」の克服で、その取組みは「英語」と「海外体験」となっています。しかし、この「英語」と「海外体験」だけで今の混迷の時代を生きるグローバル人材を育てられるのでしょうか？

☆宇都宮大学グローバル構想―「地域からのグローバル化」「地域のグローバル化」に貢献

☆国際学部国際学科において養成する人材像（改組に伴い2017年4月から実施）

⇒21世紀型グローバル人材（グローバル人材）の育成

☆国際学部の卒業生は、その多くがグローバル企業、マスコミ、NGOなどで働き、国内外で活躍しています。

**★最後に、地球公益を目指す「グローバル（地球）市民」について説明します。**

「グローバル（地球）市民」として生きるためには、「グローバル（地球）市民社会」の育成が必要だと思えます。つまり、「国際協調」を超えた「地球公益」を求めていく人間や社会を育て、「非寛容社会」から「寛容社会」への価値観の転換が求められています。

☆国連による「持続可能な開発目標（SDGs、Sustainable Development Goals）」は、2015年9月の国連総会で採択され、17の目標と169のターゲットからなり、2016年から2030年までの15年間世界の国々はこの開発目標の達成に向けて取り組み、その達成のために、国際機関、国家、企業、NGO・CSOが問題の解決に向けて取り組むことが求められています。

☆「地球公益（地球市民のための公益、Global Public Interests）」とは、公正な地球社会を求める世界の人々のための非営利活動です。その根底にあるのは公正、寛容、包摂、共生、多様性、多文化です。「地球公益」を求めることは、グローバルマインドを養い、グローバル人材を育成することだと思えます。

**参考文献**

- 駒井洋監修/五十嵐泰正・明石純一編著『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店、2015年
- 加藤／九木元『グローバル人材とは誰か 若者の海外経験の意味を問う』青弓社、2016年
- 重田康博『激動するグローバル市民社会―慈善から公正へ発展と展開』明石書店、2017年
- 友松篤信『グローバルキャリア教育―グローバル人材の育成』ナカニシヤ出版 2012年

## “ニッチ”を突き詰めて ～アジア取材という生業～



### ☆講師プロフィール

氏名：谷澤 壮一郎（谷澤 壮一郎）

所属：DNA ASIA Production（在ジャカルタ）

ディレクター・プロデューサー

略歴：

1983年生まれ。滋賀県大津市出身。インドネシア・ボゴール農科大学に交換留学後、2006年に宇都宮大学・国際学部を卒業。番組制作会社に所属し、民放ニュース番組のADを経て、2007年にNHK「BSきょうの世界」ディレクターに。2012年からは、NHK英語放送のバンコク駐在ディレクターとして、アジア各国の社会情勢や災害などを取材。2018年に独立し、インドネシアの首都・ジャカルタにプロダクションを設立。アジアに特化したニュース企画・番組制作をおこない、主にNHKで放送。主なディレクション作品に、BS特集「サダムの人質 ～湾岸危機・20年目の証言～」、NHKワールドTV「東南アジア・プラゴミ大氾濫」「アジア・インサイト」シリーズなど。

### 1. 仕事の概要

TVディレクターとして働いて15年目になります。基本的にニュース番組・ドキュメンタリー番組だけを担当してきました。この10年ほどは、念願だった東南アジアを主たるフィールドとし、NHKとその英語放送(NHKワールドTV)で取材成果を発表する機会に恵まれてきました。激動のアジアの現場で何が起きているのか、この目で直に目撃できることが、この仕事の醍醐味かと思えます。一方、多少地味でも、日々を何とか生き抜こうとする市井の人たちの姿を丁寧に描くこと、まだ広く知られていない事象につき、自分の切り口で取材し続けることもこの仕事の重要な要素です。毎回、新鮮な驚きや発見に満ちた取材は、“飽きっぽい”自分のような人間には、うってつけの仕事ではないかと感じています。

### 2. キャリアパス

【学生時代：イラク・アチェでの衝撃】

高校時代から、東南アジアに漠然とした関心を持っていました。応募した短期留学プログラムでインドネシア・スマトラ島の高校に通うことになったのが、いま思えば大きな転機でした。その後、米同時多発テロ(9.11)が発生しアフガン戦争が始まるなど、国際情勢の大きな動きに関心を持ちつつ、宇大の国際学部に入りました。戦争が起きている場所には、どんな人が暮らしているのか。そんな素朴な疑問を持ちながら、大学の休みを使い、イラク戦争(2003年)の前後に現地に3度入りました。ハンディカムで現地の大学生や庶民の暮らしぶりを撮影し、自主制作ドキュメンタリー映画を劇場公開しました。当時は批判も受けましたが、思い切って現場に行くことで見える景色があります。現場を踏まないとは何も見えませんし、誰の声も拾えません。今の仕事の根幹を教えられた気がしています。この頃、バグダッドで出会ったフリーのビデオジャーナリスト(VJ)とは、インドネシアのスマトラ沖地震・津波(2004年)の取材でも一緒に仕事をさせてもらいました。交

換留学中でしたが、当時メディアの仕事を希望していた自分には、被災地に取材に行かないという選択肢はありませんでした。この時、携わった NHK のドキュメンタリー番組制作が、自分の進路を決めたと思います。

#### 【駆け出し D 時代：幸運に恵まれた下積み】

今は亡き先輩に「やりたいことを、やりたいようにやれ」と言われたことを正直に受け止めすぎ就活は特にしませんでした。というよりも、卒業直前までアチェで撮影を続けており、就活の時間がなかったのです。それでも映像業界に入りたい、自分の撮ってきたものを世間に見てもらいたい、という強い気持ちを持っていましたが、取材・映像制作のイロハを何も知りません。見かねた先輩が、民放ニュース番組の AD の仕事を紹介してくれました。初めて TV 局で働き、華やかな気分になったのもつかの間。仕事が激務かつ単純ですぐ飽きてしまいました。とにかく早く D(ディレクター)になりたい。そんな焦りを先輩たちにぶつけた結果、幸運なことに NHK の国際ニュース番組で D として採用してもらうことが出来ました。番組で最年少 (23 歳)だったので、完全な経験不足で、企画の作り方も一切わからない状態でしたが、NHK の海外支局が日々送り込んでくる膨大な量の映像素材と格闘しつつ、レポートを次々と仕上げている仕事はとても勉強になりました。この“下積み”期間に、良い上司にも巡り合う事ができ、大変恵まれていたと思います。少しずつ海外取材にも出してもらえるようになり、湾岸戦争の証言ドキュメンタリーも制作することが出来ました。充実していた一方、次は東南アジアに行きたい、インドネシアに戻りたい、そんな気持ちが非常に強くなった時期とも言えます。

#### 【アジア駐在 D～現在：無軌道に目標へ突き進む】

英語圏への留学経験はなく、それほど英語もうまくはありませんが、2011 年に NHK ワールド(英語放送)の部署に異動しました。翌年からバンコクへ、駐在ディレクターとして赴任しました。28 歳での海外赴任、しかも東南アジアでの仕事ということで刺激に満ちた日々でした。初めはタイ人スタッフをまとめるので精一杯でしたが、徐々に自分なりのユニークなネタを探し、ディレクター目線で取材を深めることの面白さに気づき始めます。アジア域内には大勢の特派員がいますので、彼らが取材しないネタを探し、“ニッチ”を突き詰めた仕事をしていかないと、自分の居場所はないということを強く実感した 6 年間でした。アジアの激動は続き、タイのクーデタやミャンマー“民主化”の総選挙、フィリピンやネパールなどでの災害報道、ほかに選挙の取材でインドやパキスタンにもよく出張しました。社会を少しでも良くしようと奮闘する人たちとの、忘れられない出会いが多くありました。こうした人たちのことを自分のできる範囲で伝え続けるにはどうすれば良いのか。日本に戻らず、もっとアジアの現場で自分の力を試したいという気持ちが強まり、留学時代の友人とジャカルタに会社を設立。2018 年からは独立し、ひとりで取材・制作しては NHK に売り込むという生業を続けています。数々の先輩・上司に恵まれた“運”の良さに身を任せていたら、成り行きでこうなったのが実態です。ただ、業界に入ってから 15 年で、今が最も楽しく現場での仕事に臨んでいると思います。

### 3. 分科会の内容

私の職業柄、どうしてもアジアの現場取材を元にした話題がメインになると思います。経済成長が続き、世界的に注目を集める地域で、新興スタートアップなどをめぐっては日本を凌駕する動きが起きています。一方で、環境や貧困をめぐる問題は根深く、民主化や政治体制のあり方が揺らぎ、紛争や暴力、難民といったネガティブな話題が噴出する地域でもあります。

この地域の実情と課題を、多くの視聴者に伝える“TV企画”としてどう発信すべきか。“伝えたい”という思いはもちろん大切ですが、それだけでは突破できない壁もあります。また、“ビジネス”上の観点からは、企画が“ニッチ”であることが重要です。幾つかの事例を通し、企画実現への“実践論”を、皆さんと議論していきたいと思います。

そのうえで、実際にTVのニュース企画として提案すべき話題について、仮想の“企画書”を作り上げる作業を体験してもらいたいと思います。東南アジアの最新ニュースに気を配りつつ、自身が関心のある話題や、取材してみたい“ネタ”のアイデアを、当日までに2つか3つ、持ち寄って頂ければと思います。

分科会1：参加者と講師の自己紹介。講師のTVディレクターとしての経歴と、その時々各地で取材した話題の実例を通し、アジア取材の現場と、企画の立て方について知る。  
分科会2・3：上記を踏まえ、具体的にどういったテーマの企画を発信すべきか。取材手法や企画書のプレゼン方法など、TV企画実現に向けた議論を行う。

#### 4. 事前に調べてほしいキーワード

- 東南アジアの社会問題(貧困、環境、民主化、紛争、難民など)
- 国際報道 (※同名のNHK番組のサイトを見るだけでも構いません)

#### 5. 参考資料等

- 「教養の東南アジア現代史」川中豪・川村晃一 編著／ミネルヴァ書房
- 「21世紀東南アジアの強権政治」外山文子・日下渉・伊賀司・見市建 編著／明石書店
- 「ビジネス・フォー・パンクス」ジェームズ・ワット 著／日経BP社
- アフガニスタン難民 絶望を生きぬく (※2020年10月放送)  
<https://www.nhk.or.jp/kokusaihoudou/archive/2020/10/1004.html>
- タイで届ける「日本旅館」のおもてなし (※2021年2月放送)  
<https://www.nhk.jp/p/kokusaihoudou/ts/8M689W8RVX/blog/bl/pNjPgEOXyv/bp/pnZ0R8AAbK/>

#### 6. 事前予習用リーディング課題

- 「入門 東南アジア近現代史」岩崎育夫 著／講談社現代新書
- 私が取材制作した6月放送のNHKワールド「アジア・インサイト／Saving Lives through Gotong Royong - Indonesia (インドネシア・人々を救う“ゴトン・ロヨン”)」をご視聴ください。(※リンクは7月上旬まで有効です)  
<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2022330/>

上述の通り、自身が取材・発信してみたい興味のある話題を、簡単なアイデアの段階で構いませんので、2つか3つ準備しておいてください。

## コーチングを使ったコミュニケーションの極意



### ☆講師プロフィール

氏名：山本 純子（やまもと じゅんこ）

所属：ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社

常務取締役

略歴：

フェリス女学院大学卒業後、祖父の経営する印刷・広告会社に入社。

2012年に ICC Executive Coach の資格を取得したことをきっかけに企業向け人材育成コーチングを始める。又、2018年からは MBA を

取得するために University of Massachusetts Lowell に入学。2人の娘の母としても奮闘中。

### 1. 仕事の概要

#### 【コーチングを始めた経緯】

私が就職した当時は印刷物制作中心の会社であり、出来るだけたくさんの人たちに満遍なく情報を伝えるような広告手法が主でした。2000年前後から栃木でもインターネットがかなり普及し、クチコミサイト「栃ナビ！」をオープン。ばらまく情報から取りに行く情報へと世の中が変化していく時期でした。そんな中順調に成長していくポータルサイト「栃ナビ！」の全国展開が始まり、各地の会社とパートナーシップを結び運営を委託するようになりました。その際に、各社の経営者の考えや組織体制など大きな企業文化の違いを感じ、その文化のギャップを埋めるべくコーチングを取り入れたのがきっかけでした。その手法は非常に有効で大きな成果を出し、その後ビジネスにおいても弊社の武器となってきました。

### 2. キャリアパス

栃木県宇都宮市生まれ。大学卒業後栃木に戻り、父親の経営するヤマゼンコミュニケーションズ(株)に入社。結婚を機に退職し、2人の娘を出産。主婦として数年を過ごしましたが、次女が幼稚園に入園したタイミングに仕事に復帰。数年のブランクがあったため、社長である父親から何か”自分にしか出来ないこと”を身に付けることが復帰の条件だと言われました。”自分は何が得意で、何がしたいのだろう” ”自分にしか出来ないことって何だろう”と自分に問いかけても何の答えも見つからず、40才手前で改めて自分と向き合うことになりました。

まず、以前から興味があった心理学(NLP)の資格を取得しましたが、その先の活用のビジョンが見えずにいました。そんな折に恩師である NLP のジョセフ・オコナー氏との出会いにより” Executive Coaching ”を学び、Business, Team, Leadership, Life の4つのジャンルのコーチングスキルを会得し、ビジネスとしての展開が出来るようになりました。現在では多くの顧問先を持ち、人材育成のためのコーチングや、研修、メンタルヘルスな

どを受け持っています。

### 3. 分科会の内容

そもそも人は一人一人違うものであり、その違いを知り、受け入れ、ともに尊重していくことが大切。

まずは自分が何者かを知ることが重要です。

分科会では”自分の価値観や信念”を過去にまでさかのぼって探求していきます。

また学習スタイルによる人のタイプ分け、それぞれの行動パターン、思考パターンなどの抽出などのワークショップを取り入れ、多方面からの分析を行います。

自分を理解したら、次は他者理解、つまりコミュニケーションスキルを学び、その二つのアプローチにより、より良い人間関係の構築が出来るようになります。

人生の選択肢を増やすことが大きな目的です

### 4. キーワードリスト

- 価値観とは
- 信念とは
- コーチングとは

### 5. 参考資料等

NLP でコーチング～最高の人生を生きるためのライフ・コーチング実践ガイド～  
ジョセフ・オコナー&アンドレア・ラゲス著 ISBN-13: 978-4885090820

### 6. 事前予習用課題

コーチと先生、メンターとコンサルタントの違いを説明してください。

## 学際フィールドワークを試してみる



### ☆講師プロフィール

氏名：大久保 達弘（おおくぼ たつひろ）

所属：宇都宮大学

農学部 森林科学科 教授

略歴：

1959年東京都生まれ、東京、名古屋、神奈川で育ちました。小中学校ではボーイスカウトで野外活動の楽しさを体験し、高校時代は登山、天文学、植物科学に興味を持ち、宇都宮大学農学部で林学を専攻し、大学院でブナ林の生態学を学びました。宇都宮大学に助手として就職した後、ヨーロッパ、アメリカ、東南アジア（マレーシア・サラワク州、北タイ、中国西南部）での短期・長期のフィールドベースの研究を継続しています。また最近、大学間協定校マレーシア・サラワク大学（UNIMAS）の全学の海外英語研修で引率教員も務めています。

### 1. 仕事の内容・研究テーマ

農学部森林科学科と大学院修士課程森林生産保全学プログラムで、森林生態学、育林学、森林立地環境学（主に森林土壌）、森林保護学（森林火災、生物害、原子力災害など）およびそれらの実験実習科目を教えています。フィールド中心の森林生態学研究者で、現在の研究テーマは「東南アジアの熱帯林（サラワク・マレーシア、タイ北部、中国南部）および東アジアの温帯落葉樹林（日本、韓国）における生態系再生回復力（レジリエンス）のパターンとプロセスに及ぼす自然・人為的攪乱の影響」に取り組んでいます。大学農学部里山科学センターの創設メンバーであり、センター長を務めました。2010年に名古屋で開催された国連生物多様性条約 COP10 では、日本里山・里海アセスメント（JSSA）の関東中部クラスター共同代表を務め、報告書「関東中部クラスター：里山・里海生態系と人間生活における里山・里海・都市の未来：日本の社会生態学的生産風景」をまとめました。2011年の福島原発事故後、栃木県里山の落葉広葉樹林における落葉由来の堆肥生産の再開課題を中心に、森林生態系における放射性セシウム動態の研究を開始し現在に至っています。また、放置されて大径化している里山落葉広葉樹林の生物多様性を含めた維持管理についても関心があります。

### 2. キャリアパス

農学部で林学を学び、大学院修士課程林学専攻で森林生態学を学びました。卒業後は、大学での研究・教職に就きました。国際的な活動としては、韓国、ヨーロッパ、アメリカでブナ林の生態系に関する短期フィールド調査を開始。その後、マレーシアのサラワク、タイのチェンマイ、中国南西部で、劣化した森林地域の回復と回復力の研究に関する長期滞在型のフィールドベースの研究プロジェクトに参加しました。このプロジェクトを通して、チームビルディング、プロジェクト運営の重要性を知りました。2005年のサバティカル期間中には、米国 CT 州にある専門職大学院（Yale 大学林学・環境学専門職大学院）に客員教員として滞在する機会があり、世界各国からの大学院生と一緒に、持続可能な森林

と自然資源管理に関する複雑な問題を解決するための学際的なアプローチを体験したほか、アクティブラーニングを通じた非母語話者の専門的なコミュニケーション能力の強化の重要性を実感しました。

### 3. 分科会の内容

本セッションの目的は、様々なバックグラウンドや分野の参加者が共通の関心を持つ“持続可能な土地利用や自然資源管理”に関する複雑な問題を解決するための学際的なアプローチを中心に、研究プロジェクトの計画立案（課題設定、仮説提示など）、必要なスキルの習得、フィールドベースの研究への応用について議論することです。特に東南アジア・東アジアの農村・山岳地域でのフィールド研究について、参加者との相互の関心事について議論したいと考えています。

### 4. キーワードリスト

- フィールドサイエンス
- 文理融合学際研究
- 自然資源管理
- 農山村地域研究
- 環境保全
- アグロフォレストリー（混農林業）

### 5. 参考資料等

- 野口悠紀雄（2004）『「超」英語法』,講談社
- 西村肇（1995）『サバイバル英語のすすめ』,ちくま新書,筑摩書房
- ウィリアム・A・ヴァンス（2017）『答え方が人生を変える』CCCメディアハウス

### 6. 事前予習用リーディング課題

以下のマレーシア・サラワク州と中国西南部での研究プロジェクトについて各リンク先から文献をダウンロードして、読んでおいてください。

- ・ 可知直毅・高井康雄（1998）特集：熱帯林の保全と修復にむけて、地球環境 Vol.03 No.1-2のうちから以下3つの文献

荻野和彦「熱帯林の保全と修復に向けて」、

櫻井克年「マレーシア・サラワク州・バカムにおける生態系修復を目指した試験造林」

山倉拓夫「熱帯林大規模長期観察計画－熱帯林研究100年の計－」

[http://www.airies.or.jp/journal\\_03-1-2jpn.html](http://www.airies.or.jp/journal_03-1-2jpn.html)

- ・ 出村克彦（2002）中国西南部における生態系の再構築と持続的生物生産性の総合的開発、平成14年度日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業研究成果報告書概要

[https://www.jsps.go.jp/j-rftf/saishu/h14/f03\\_j.html](https://www.jsps.go.jp/j-rftf/saishu/h14/f03_j.html)

- ・ 黒河，功（2002）中国広西壮族自治区の少数民族集落における農家実態：大化県七百弄郷における農家実態調査データ分析、農業経営研究, 28, 127-139

[https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/36574/1/28\\_127-140.pdf](https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/36574/1/28_127-140.pdf)

さらにワークショップに参加する前に、4.のキーワードを確認した上で、参加者各自が興味を持った地域・国内外の天然資源管理の課題や、地域・地球規模の林業、農業、漁業関



連などに関連した環境保全に関する課題を解決するためのプロジェクトを事例研究として選択し、以下の質問に対する回答・課題を準備してから参加してください。

- ・選択したプロジェクトにはどのような背景があるのか？
- ・どのようなプロジェクト内容であったのか？
- ・プロジェクトから得た教訓は何か？
- ・プロジェクトの強みは何か？
- ・プロジェクトの弱点は何か？
- ・もし他の方法で行うとするとどのようにしたらよいか？
- ・これから日本でも採用できることがあれば、それは何だったか？

## 何を大切にするかによってキャリアは変わる。



### ☆講師プロフィール

氏名：大澤 みずほ（おおさわ みずほ）

所属：特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター  
(JVC) パレスチナ事業担当

略歴：

看護師として日本の病院で救急医療に従事した後、青年海外協力隊（看護師・パラグアイ）に参加。帰国後に日本の緊急支援 NGO でのインターンを経て、2018年に JVC に入職し、現在パレスチナ事業を担当

### 1. 仕事の内容・研究テーマ

- 事業の管理：事業内容や予算の計画と管理、現地と東京事務所との調整、その他事業を実施するうえで必要な細かい作業を行う。
- 広報・ファンドレイジング：ドナーへの申請や報告、様々な媒体を用いての発信活動や、学校での講義、外部講演、メディア出演、寄付キャンペーンの実施、など。
- その他、アドボカシーネットワーク会議への出席

### 2. キャリアパス

私は子どもの頃にテレビで同じくらいの年の子どもが飢餓や紛争で苦しんでいる姿を見て、「なんて不公平な世界なんだろう…」ということを感じました。その後、身近だった医療を通して国際協力をしたと思うようになり、大学で看護学を学んで看護師となりました。緊急医療支援に携わるため、日本の救急病院の集中治療室（ICU）で5年弱勤務。しかし、たくさんの生死に立ち会う中で、病院で治療を受けるひとときよりもずっと長いその前後の生活や人生に関わる仕事をしたいと考えるようになり、JICAの青年海外協力隊に応募し、看護師として南米パラグアイの田舎の病院に所属して2年間活動しました。主に地域保健に関わることをやっていましたが、その中で学んだことは、経済ではない豊かさ、そして人びとが抱える問題には様々な要因が複雑に絡んでいるということでした。医療サービスを受けられないという問題一つをとっても、政治、経済、教育、コネ社会、インフラ、など様々な要因が医療へのアクセスを阻む要因となっていることを学びました。「自分は看護師になったし、その専門分野でやっていくのがいいのかな。」とも思いましたが、本質的に自分は何を大切にしたいのかを考えた結果、私は医療や保健の専門家になりたいのではなく、人が自分で人生を選択しよりよく生きるために何かしたいと思い、現職の JVC パレスチナ事業担当へとたどり着きました。

### 3. 分科会の内容

世界の問題を考え出すと、「自分一人が何かをしても何も変わらないかもしれない」という気持ちになることがあるかもしれません。しかし、国際協力というのは、たくさんの人

がそれぞれの立場で出来ることを持ち寄り、一緒に考えて行動することで成り立っています。パレスチナ問題に対する各アクターの実際の関わりを例に、みなさんが将来、何を大切にしたいのか、どの立場からどんな方法で国際協力に関わりたいのか、そしてそのために必要なことを一緒に考えていきたいと思えます。

#### 4. キーワードリスト

国際協力とは何か、国際協力に関わるアクター、価値観

#### 5. 参考資料等

特になし

#### 6. 事前予習用リーディング課題

- 自己紹介の準備（名前、所属、興味・関心事、分科会の参加理由、分科会に期待していること）
- 自分が思う国際協力とは何か、国際協力にはどんなアクターがいるかを考えておく
- 自分の人生の中で大切にしていることを挙げる（上位5つまで）
- 自分の人生の中で絶対に実現したい・達成したいと思うことを挙げる（上位5つまで）

## 元リクルートのキャリアコンサルタントと考える、 ジェンダーとキャリア



### ☆講師プロフィール

氏名：石井 由貴（いしい ゆき）

所属：Joy Living Lab.代表、キャリア戦略カレッジ共同主宰  
キャリアコンサルタント

略歴：

慶應大総合政策学部、東大新領域創成科学研究科にて福祉の社会学を学ぶ。新卒でリクルートキャリアに入社し9年間転職支援事業に携わる。現在はキャリアコンサルタントとして一人ひとりが自分らしいキャリアを作っていくためのセミナー・コンサルティング・執筆・講演を行う。筑波大学博士課程に在籍中。2児の母。

### 1. 仕事の概要

キャリアコンサルタント業、大学院生としての研究活動、母親業に携わっています。

・キャリアコンサルタント

企業に入ったらそれで定年まで安泰という時代ではなくなり、就職後も社内外で自分なりのキャリアを模索し続けるひが増えています。大学生のみなさんは、就職活動をするにあたって「どういう仕事をしたいか、向いているか」など考えることになると思います。そしてそういった模索はこれから、様々な節目でまた向き合うこととなります。そんなときに、キャリアをどう構築するか、仕事の悩みをどう解決するか、といった相談相手になるのがキャリアコンサルタントです。私は現在、働く母親向けの講座開催、個別キャリアコンサルティング、記事執筆や講演活動を行っています。

・大学院生（博士課程）

出産後の女性の健康問題をテーマに、NPOの運営する産後のリハビリプログラムを題材に産後女性への適切なケアについて研究しています。

・母親業

13歳男子と9歳女子の母親として奮闘しています。PTAや部活など地域のお仕事も色々。

### 2. キャリアパス

#### 【学生時代】

学部生時代は、決まった内容を覚え続けた受験勉強のあとに急に自主性が求められる学内の雰囲気にもまれて自分を見失い、悩んだ日々でした。途上国の支援に関心があったものの、現場に行くことで、まず私は自分の課題に向き合うべきだと考えました。やがて自身の生きづらさと育ってきた家庭内の問題一兄の不登校や父の不在、母親の憂鬱一、それに時代的・社会的な背景がリンクしていることに気づいて、女性の雇用問題に関心をもつようになりました。修士では「ハンデがあっても働くことで、生きやすくなる」ことに関心があり精神障害を持つ人達のコミュニティについて研究。学部時代の就職活動は本腰入ら

ず失敗し、修士での就職活動でなんとかリクルートエージェント（現リクルート）に入社できました。

#### 【リクルート時代】

リクルートでは、中途採用斡旋の事業部で9年勤めました。転職を希望する方たちと、中途採用したい企業との仲介をする事業です（派遣業とは異なります）。私は転職を希望する方たち向けのサービスを企画する企画部門に配属になりましたが、自分は転職どころかまだ働き始めたばかりでわからないことだらけ、また体育会系の社風になかなかなじみず初めは苦労しました。やがて転職希望の顧客対応をする担当となり、面談、求人紹介、書類作成サポート、面接サポート、入社までをお手伝いする仕事にも携わりました。述べ2000人ほどの求職者の方々の書類を見、お話を聞いてサポートさせていただきました。この間に結婚、二人の子どもを授かり産休・育休を取得して時間短縮制度を使って復職（22時まで勤務など当たり前の職場で、時短を使うことでようやく定時に帰れる社風でした）。数年それではがんばりましたが長い目で見て限界を感じ、またもともと大学院に戻ることを希望していたなどもあって退職しました。大変なことも多かったけれど上司・先輩・同僚に恵まれた時代もあってとても楽しい思い出もたくさんあります。

#### 【現在】

元同期が創業した会社でキャリアカウンセリングサービスを始めるというので、キャリアカウンセラーとして登録し、キャリアカウンセラー・キャリアコンサルタント資格を取得して独立しました。また大学院受験にも挑戦し、あちこちの研究室をまわって2年がかりで筑波大の先生に受け入れていただきました。産後に出会った子育て支援のNPOで長年ボランティアをしており、そのNPOの産後のリハビリプログラムを題材に産後女性への適切な支援について研究しています。

### 3. 分科会の内容

女性の社会進出、女性活躍といった言葉をよく耳にするようになり、たしかに以前のよう企業での女性の採用がほぼなかった時代や、女性は補助的な仕事のみで結婚退職が当たり前といった時代に比べれば、随分女性が企業で働くことが一般的になりました。一方で、データを見ると第一子の産前産後に仕事をやめないで続ける女性がようやく半数を超えたのがここ数年という状況です。女性の就業率全体は上がったものの非正規雇用の割合が非常に高いという現実もあり、今回コロナ禍がその雇用を直撃しています。女性がライフイベントを超えても自分のしごとを続けることがまだ大変な状況のなか、どんなふうに希望をもってキャリアを描いてゆこうか、と一緒に考えていけたらと思っています。

### 4. キーワードリスト

ジェンダー、キャリア、ライフイベント

### 5. 参考資料等

- リンダ・グラットン他『LIFE SHIFT（ライフ・シフト）』、東洋経済新報社、2016.
- 上野千鶴子、田房永子『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください！』、大和書房、2020.
- シェリル・サンドバーグ『LEAN IN（リーニン）女性、仕事、リーダーへの意欲』、日本経済新聞出版、2013.

### 6. 事前予習用リーディング課題

下野新聞「日曜論壇」コーナーへの連載記事（6本）

<https://blog.joyliving.org/entry/2021/01/31/094733>

## いくつもの日本

### ～アイヌ民族から考える多文化共生～



#### ☆講師プロフィール

氏名：若園 雄志郎（わかぞの ゆうしろう）

所属：宇都宮大学

地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科 准教授

北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 客員研究員

略歴：

北海道釧路市出身。北海道大学アイヌ・先住民研究センター博士研究員を経て、2013年より宇都宮大学基盤教育センターでアクティブ・ラーニングの推進に携わる。2016年より現職。専門は社会教育、マイノリティ教育。近年はアイヌ民族に関する諸問題に加え、社会教育の視点から高校と地域の連携などについての研究をしている。

#### 1. 仕事の内容・研究テーマ

##### a) 学校（主に高校）と地域の連携

全国的に地方創生の流れの中で、「地域」についての様々な取り組みが活発に行われています。そのうちの1つとして、学校と地域の連携が挙げられます。最近では「コミュニティスクール」という形で、学校と地域が協働して学校の課題・地域の課題の解決を探り、学校の運営に取り組んでいこうとする例も多く見られるようになってきました。

2014年より栃木県では「地域連携教員」を全ての小学校・中学校・高校・特別支援学校に配置して地域連携に積極的に取り組んでいます。特に高校においては地域が抱える様々な課題の解決に向けた「地域対応力」を育てるための地域課題解決学習を積極的に取り入れる動きが出ています。私が関わっているものに、烏山高校の「烏山学」、馬頭高校の「那珂川学」があります。どちらも生徒が少人数のグループを組み、地域における課題を実践的に学び、その解決法を提案するものです。これは当然学校にも地域にもメリットがあるので、学校としては上述の地域対応力や実践力が生徒に身につく、地域としては若い世代が関わることにより、これまで気づけなかった地域の姿がわかるようになる、地域の魅力を高校生に伝えることができるようになる、といったことが挙げられます。

一方で、これらの活動が活発なのは人口減少地域に顕著であり、いかに学校と地域を盛り上げていくか、または相互に支え合っていくかを模索するものでもあるといえます。

また、地域連携教員と関連して、主に学校以外での教育である社会教育や生涯学習などに関連する企画立案や教育の方法などに関する専門知識を有する社会教育主事の養成も行っています。今までは主に市町村や都道府県において任用される「任用資格」だったものが、2020年度からは「社会教育士」として民間企業・団体・NPO等でも活躍が期待されるようになりました。

## b) アイヌ民族に関する教育課題

私が担当している「多文化理解論」という授業ではもちろんですが、「生涯学習社会論」でもこの問題を取り上げています。また、年によって形態は異なりますが、アイヌ文化を学ぶ公開講座を開催しており、地域の方々への普及啓発を行っています。元々は大学の公開講座として2019年度の本セミナーの講師であった廣瀬隆人先生が始められたものですが、それを引き継ぎ、また地域デザイン科学部における公開講座として2018年度より陽東キャンパスで開催しています（2020年度中止）。

そもそもなぜ宇都宮でアイヌについての講座をやるのか、と問われたこともあります。それに対してはなぜ国際学部の先生は世界各国の研究を日本の・栃木の・宇都宮で行っているのか、という問いとして返すことができるでしょう

## 2. キャリアパス

＜大学＞早稲田大学に行きたい！という思いだけで複数学部を受験、何とか一応第1志望の教育学部教育学科社会教育専修に入学する。誰も使ってなさそうな言語を学びたい、という安直な考えで、卒業単位として認められていた語学研究所の科目のうち、「アイヌ語」を選択。「誰も使っていない」というのが勝手な思い込みだったことに気づく。

＜大学院＞就活はせず、大学院で多文化教育を学ぼうとする。ここでアイヌと博物館教育という博士論文へ至るテーマにたどり着く。当時は北海道に親戚がいたので、そこを拠点としながらアイヌの教育や博物館活動に関する資料収集を行う。また、先輩に勧められ、オーストラリアの先住民族に関する研究も行うようになる。在学中は非常勤講師をしながら博士論文の執筆と就職活動を行うも、お祈りメールの山となる日が続く。

＜北海道大学＞少々やさぐれていたところに、北海道大学アイヌ・先住民研究センターで博士研究員を募集しているという情報を得るも、まだ博士号を取得しておらず、また、「どうせ出来レースだろうから応募しても無駄だろう」という思い込みで応募しないで行ったところに、自主ゼミでお世話になっていた先生から「君が応募しないというのはあり得ない、すぐに応募しなさい」と言われ、締切ぎりぎり書類を提出。まさかの採用となる。ここでは今に至る多くの人脈と情報を得ることになった。ちなみにここでようやく自立できるだけの収入を得ることができた。

＜宇都宮大学＞北大は3年の任期付研究員だったため、また次の職を探さなければならなくなるが、やはりお祈りメールだけがたまっていくことになる。プライベートではちょうど縁あって結婚をしたため、職探しに焦りがあり、研究職以外も検討するようになる。1箇所事務職として採用直前までいくも、博士号をまだ取得していなかったことから、このまま諦めていいのかと自問し、次のあてが無いにもかかわらず結局お断りをする。任期切れ直前となり、アイヌではなく社会教育の専門知識を生かし、大学におけるアクティブ・ラーニングの推進を職務とする宇都宮大学基盤教育センターに採用となり、同様に社会教育の専任教員として地域デザイン科学部に移籍する。

以上が私のキャリアパスです。

## 3. 分科会の内容

数年に1度ぐらい、有力政治家が「単一民族」発言をすることがあります。おそらく彼らとしては積極的にアイヌ民族を差別しているわけではなく、無関心なだけだといえます。しかし、無関心であることもまた差別だということに気づかなければならないでしょう。授業や公開講座などで、受講者が北海道出身者、あるいは親戚が北海道にいる、という場合もよくあるのですが、「アイヌの存在は知っているけど詳しくはわからない」「学校で習ったような気がする」といった反応が普通です。北海道で生活していたとしても、アイヌ

民族を意識するのはせいぜい地名のルーツやたびたび発売されるアイヌ文様を取り入れた商品を見たときぐらいかもしれません。

しかしながら、アイヌ民族をめぐる課題は、その歴史的経緯を考えれば日本全体における大きな問題であることが指摘できます。地名や商品は確かに接しやすく面白いものなので、これからも触れる機会が増えていくことを期待していますが、一方で、「当たり障りの無い文化」だけを選択的に受け入れるのもまた差別への萌芽が潜んでいるといえます。そこで本分科会では各自（受講者数によっては小グループ）で「アイヌ」に関する話題や課題を調査し、それを相互の共有し議論することで、多文化「共生」とはどのようなことなのかを考えていきます。可能であれば、「テキストの1ページをつくる」ということに取り組んでみたいと思います。

#### 4. キーワードリスト

共生 / アイヌ民族 / ウポポイ（民族共生象徴空間） / イランカラッテキャンペーン

#### 5. 参考資料等

- ・加藤博文・若園雄志郎編『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』山川出版社、2018
- ・瀬川拓郎監修『カラー版 1時間でわかるアイヌの文化と歴史』宝島社、2019
- ・中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社、2019

#### 6. 事前予習用リーディング課題

- ・上記『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』pp119-140（コピー）
  - ・アイヌ民族文化財団の中学生向け副読本『アイヌ民族：歴史と現在』  
<https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/cyuugakusei.pdf>
- ※「中学生用」ではありますが、内容は一般用としても遜色ありません。



2021 年度国際キャリア教育セミナー  
「国際キャリア教育」事前学習資料集

発行日：2021 年 7 月 1 日

発行：宇都宮大学 国際学部

〒321-8505 宇都宮市峰町 350

TEL: 028(649)5172 FAX: 028(649)5171

E-mail: [kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)

学部		学科	
学年		氏名	